

海龍王寺旧境内の発掘

1969年度歴史研究室・平城宮跡発掘調査部の調査 3

調査部は、1969年12月に、奈良市法華寺北町にある海龍王寺の、経蔵の東に隣接する空地のうち 1.4 a について、宅地造成にともなう緊急調査を実施した。発掘区の中央から東に向っては、地山が急激に 1 m ほどさがっており、出土瓦からみて、中世に削りとられたものらしい。発掘区の北は、宅地造成のためすでに削平済みであって遺構をとどめていなかった。

発掘区の南端には、東寄りに東西棟、西寄りに南北棟の建物がある。東西棟は東部を後世に破壊されている。南北棟は、倉庫ふうの建物である。海龍王寺創建当初の建物であろう。発掘区の中央には、棟の方向を東北—西南にとる建物がある。溝・柱穴なども検出した。

出土遺物の大半を占めるのは瓦である。軒丸瓦が13点、軒平瓦が11点あり、このうち、6282・6721の両形式が、それぞれ9個と7個を占めている。

(石井則孝)

第1表
海龍王寺旧境内の遺構

第1図 海龍王寺旧境内遺構配置図